

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会 2022年度事業報告書

I 活動報告

2022年度（2022年4月1日～2023年3月31日）は、当協会にとって公益社団法人としての第10期となり、定款・規程・規則に則った協会運営を進めた。

2020年2月に始まった、新型コロナウイルス感染症の感染拡大から2年を経過し、活動に制限を受けることは少なくなり、昨年を引き続き慎重な運営ではあったが、少しずつ日常の活動を取り戻していく一年となった。

講習会、クリニック、フットボール教室等、選手・指導者が集合する行事はWebを利用したオンライン開催が併用され、少しずつ開催できるようになった。また、予定されていた国際大会、も感染症対策と向き合いながら、予定通り開催された。

このような状況下で、各加盟団体では活動の制限はあったものの、各地域で公式戦を行い、社会人、大学、高校、中学ともそれぞれシーズンを終えることが出来、各世代で日本選手権が開催された。

また、2022年7月にアメリカ合衆国アラバマ州バーミングハムで開催された「ワールドゲームズ2022」に、初めてフラッグフットボールが公開競技として採用され、2021年の世界選手権で6位入賞であった女子日本代表が5位入賞を果たした。

1) 日本スポーツ協会公認指導者養成事業

定款第5条第1項第1号に関連する事業として、公益財団法人日本スポーツ協会が主催する公認指導者養成事業の一つとして、アメリカンフットボール競技に関するコーチ資格の専門科目講習会を開催した。

4日間の講習プログラムを2回ずつ開催した。全てオンライン形式で開催した。

【A日程】

- ・ 7月16日（土） 【第1日】 JAJA 事務所会議室
- ・ 7月17日（日） 【第2日】 JAJA 事務所会議室
- ・ 7月23日（土） 【第3日】 JAJA 事務所会議室
- ・ 7月24日（日） 【第4日】 JAJA 事務所会議室

【B日程】

- ・ 1月15日（日） 【第1日】 JAJA 事務所会議室
- ・ 1月21日（土） 【第2日】 JAJA 事務所会議室
- ・ 2月4日（土） 【第3日】 JAJA 事務所会議室
- ・ 2月5日（日） 【第4日】 JAJA 事務所会議室

2) コーチクリニック、フットボール教室

定款第5条第1項第1号に関連する事業として、日本スポーツ振興センターくじ助成プログラム（スポーツ活動推進事業）の助成を得て、「JAF A フットボールアカデミーキャンプ」を下記の通り実施した。

「JAF A フットボールアカデミーキャンプ」は重大事故の未然防止等、選手の安全を守る観点から、ユースならびに高校生、あるいは大学入学後に初めてフットボールを始める選手たちを対象にした研修事業。公認指導者養成講座専門課程のテキストである「ショルダータックリング」ならびに「ヘッズアップ・ブロッキング」を活用した座学および実技指導を行っている。

加盟団体からの要請に基づき下記日程にて「JAF A フットボールアカデミーキャンプ」(HUF クリニック) をコロナ感染予防対策を施しながら下記のアカデミーを実施した。

【開催されたクリニック】

- ・ 2022年4月11日（月）：高校生指導者クリニック（日本高等学校連盟）
- ・ 2022年5月22日（日）：ヘッズアップアカデミー（東北学生連盟）
- ・ 2022年6月26日（日）：ヘッズアップアカデミー（東海学生連盟）
- ・ 2022年7月3日（日）：ヘッズアップアカデミー（北海道学生連盟）

【延期されたクリニック】

- ・ 2022年3月：ヘッズアップアカデミー（中四国学生連盟）

3) 川崎市まちづくり推進連絡調整会議参加、ならびにアメリカンフットボールの普及活動

定款第5条第1項第1号及び第11号に関連する事業として、川崎市のまちづくり推進連絡調整会議に参加し、アメリカンフットボールを活用した川崎市のまちづくりと、川崎市におけるアメリカンフットボールの普及発展に努めた。

2007年、川崎市と本法人との間で「アメリカンフットボールを活用した川崎市のまちづくり」に関する包括協定を締結し、川崎市主導の「まちづくり推進委員会」に参加してきたが、2015年3月に富士通スタジアム川崎が完成したことから、川崎市関連団体、川崎市市民団体、アメリカンフットボール競技団体が一体となって、2016年2月、川崎市の協力を得て、富士通スタジアム川崎を活用したまちづくりを推進するために、「アメリカンフットボールを活用したまちづくり推進連絡調整会議（議長：間野義之早稲田大学スポーツ科学学術院教授）」を発足した。

2022年度は、社会に貢献できる活動に積極的に取り組む「社会性」、地元企業や教育機関との関係性を構築して進める「地域性」、多くの方に興味を持ってもらう「話題性」の3つのテーマを掲げ活動を展開した。「社会性」では家庭支援センターにお米を寄贈し、視力低下防止啓

発イベントを開催し、また多文化交流フェスティバルを開催した。「地域性」ではアメフト屋台村、古着市などを開催した。「話題性」では相撲協会と協力し隆の勝関の始球式をはじめ、川崎市出身のヒップホップアーティスト BIM さん、T リーグ長崎美袖選手などの始球式を行うほか、オンラインを活用した観戦講座や試合ライブ配信を行った。

また、6月～2月にかけて川崎市立小学校を中心に、指導員を派遣し、体育の授業としてフラッグフットボールのルールと基本的な技術（戦術）を指導する「フラッグフットボール巡回教室」を実施した。実施した学校は82校、参加した生徒は延べ16,560人であった。

4) 国際競技力向上に向けた事業

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、各世代の有力選手を募り、技術力向上を目指しクリニックや練習を実施する事業を行った。また、活動を通して指導者の交流や指導力の向上にも役立てた。国内での練習、クリニックだけでなく、海外遠征等も行った。

① U-15・U-17 フラッグフットボール国際試合（世代：14～17歳、男女）

2022年6月にアメリカ合衆国ミシガン州で開催されたUSA FOOTBALL主催のフラッグフットボール国際試合「ジュニア・フラッグフットボール・インターナショナル・カップ2022」に15歳以下、17歳以下、男女それぞれの4チームを派遣するため、日本選抜選手の発掘・育成・強化練習を実施し、ジュニア世代フラッグフットボール選手の競技力向上を図った。また大会は2023年にも予定されるため、帰国後も、継続して日本選抜選手の発掘・育成・強化練習を実施した。

【大会前の練習】4月3日～6月12日

[U-17 男子] 関東地区練習×5回、関西地区練習×4回、合同練習×3回、を実施

[U-15 男子] 関東地区練習×6回、関西地区練習×3回、合同練習×4回、を実施

[U-17 女子] 合同練習×8日（内、5月3～5日は合宿形式）を実施

[U-15 女子] 関東地区練習×3回、関西地区練習×2回、合同練習×2回、を実施

【大会後の練習】9月25日～3月26日

[U-17・15 男子] 関東地区練習×6回、関西地区練習×6回、を実施

[U-17・15 女子] 関東地区練習×3回、関西地区練習×6日、合同練習×2回を実施

② フラッグフットボール日本代表候補、合同練習（世代：18歳以上、男女）

2022年4月～2023年3月 関東・関西それぞれで、月1回程度開催、日本代表候補選手地区練習および合同練習を行った。

[男子] 関東地区練習×8回、関西地区練習×6回、を実施

[女子] 関東地区練習×6回、関西地区練習×6回、合同練習×9回、を実施した。

③ フラッグフットボール日本選手権の開催（世代：6歳以上）

フラッグフットボール日本選手権を主催し、将来および現在のフラッグフットボール日本代表候補選手の発掘および強化を行った。

- i) 2022年12月25日：2022年度フラッグフットボール日本選手権
 - ・小学生高学年（南関東、東海、関西、九州地区代表）、優勝：武蔵野ライオンズ
 - ・小学生低学年（南関東、関西、九州地区代表）、優勝：世田谷ブルーサンダース SE
 - ・中学生（南関東、東海、関西、九州、沖縄地区代表）、優勝：草津リトルパンサーズ
 - ・中学生女子：南関東、関西地区代表）、優勝：Jr. シーガールズ・ガールズ
- ii) 2023年3月19日：2022年度フラッグフットボール日本選手権
 - ・高校生以上男子（東北、北関東、南関東、東海、関西、九州、沖縄地区代表）
優勝：北大阪ハスキーズ
 - ・高校生以上女子（南関東、関西、九州地区代表）、優勝：Blue Roses

④ シニア日本代表候補選手発掘・合同練習（世代：20歳以上）

2023年7月ドイツで開催予定であったアメリカンフットボールシニア世界選手権が延期となったため、シニア日本代表候補選手の人材発掘及び合同練習は行わなかった。

⑤ クロスオーバーアスリート測定会（世代：16歳以上）

他競技経験者の中からアメリカンフットボール選手として活躍できる人材を発掘し、大学でこの競技に取り組んでもらう環境を整備することを目的に、高校生を対象に NFL コンバインで採用されている種目で測定会及びアメリカンフットボールの体験会を実施した。

- ・7月31日 東海地区
- ・8月3日 関東地区
- ・8月11日 関西地区
- ・8月22日 九州地区
- ・8月23日 中四国地区
- ・9月19日 北陸地区

（地区学生連盟6地区）において開催、計30名が参加

⑥ 地域クラブ活動支援プログラム（世代：16歳以上）

長期育成プログラムの趣旨に沿った、高校生クラブ活動を行う団体に対して、立ち上げや活動等の支援を実施。自立したクラブとして、活動できるように、各参加団体の協力を得ながら、活動の支援を行なっていく。

今年度はコロナの影響もあり次年度以降に持ち越し

⑦ 海外リーグへ挑戦する選手を発掘する（世代：20歳以上）

国際競争力向上の為、国内トップレベル選手が海外リーグ参加へ挑戦出来る環境を整える。世界のトップレベルである北米のプロリーグ等の挑戦を後押しする。

- ・2023年2月25・26日、カナディアンフットボールリーグ（CFL）トライアウト実施した。

※好成績の4選手が3月22～26日にカナダ・エドモントンで開催されたアメリカと

カナダ以外の国籍の選手を対象とした CFL グローバルコンバインに招待を受け参加した。

⑧ その他

i) LTAD プログラム策定

日本代表選手及び、海外プロリーグに到達可能性のある選手の発掘及び育成に向けた環境整備に関わる調査の実施、及びその分析を通じた知見の獲得を目的として筑波大学の松尾博一助教から学術指導を受ける契約を締結し2年目を迎えた。この学術指導に基づいて Long Term Athlete Development (”LTAD”=「長期的なアスリート育成」) プログラムを策定中。

2023年2月より若年層(小学生、中学生、高校生)の現状把握と課題抽出を目的に各カテゴリーの現場の指導者及び関係者19名へのヒアリングを実施し、LTAD プログラム策定へ反映するために引き続き作業中。

ii) 高校指導者向け講習会(再掲:2) コーチクリニック、フットボール教室)

若年層の競技人口拡大のために指導者を支援することが重要との観点から、日常的に極めて大きな負荷がかかっている高校の指導者に向けて現場支援の一環として、クリニックを開催した。

- ・4月11日 Zoom形式でクリニックを開催

講師: NFL クリーブランド・ブラウンズ元アシスタントコーチの小坂恭平氏

5) アメリカンフットボール日本選手権「ライスボウル」の開催

定款第5条第1項第3号に関連する事業として、アメリカンフットボール日本選手権「第76回ライスボウル」を主催した。

一昨年度まで続けられてきた学生対社会人の対戦は、昨年度より社会人同士の対戦と変更となった。ファンが求めている緊迫感、試合の質の高さを十二分に見せてくれた試合内容となり、結果は富士通がパナソニックを29対21で退け、2年連続7度目の日本一に輝いた。

東京都新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を整え、観客数の制限は受けなかった、来場者は16,796名であった。

6) 高校アメリカンフットボール連盟及びユース・フットボール競技総括団体の主催試合等の後援・助成

定款第5条第1項第3号に関連する事業として、以下の大会を後援した。

- ・2022年度高等学校日本選手権大会決勝戦、(第53回クリスマスボウル)

- 2022年12月25日（日） 於）神戸王子スタジアム
- ・東西地区選抜高等学校アメリカンフットボール対抗戦（第12回ニューイヤーボウル）
- 2023年1月8日（日） 於）富士通スタジアム川崎
- ・第9回日本中学生アメリカンフットボール選手権
- 2023年1月9日（月・祝） 於）富士通スタジアム川崎

7) 国際試合の主催・後援

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、次の通り、国際試合の後援を行った。

① 第9回 TOMODACHI BOWL

東日本大震災の後、米軍が OPERATION TOMODACHI（ともだち作戦）と称して東北に物資の補給などの支援活動を展開したことをきっかけとして、開催されるようになった「第9回 TOMODACHI BOWL」の後援を予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点からこの試合は中止となった。

第9回 TOMODACHI BOWL

試合日程：2023年3月

試合会場：米軍厚木基地 リードメモリアルスタジアム

対 戦：Team USA（米軍基地高校、アメリカンスクール選抜チーム） 対
Team Rising Sun（U-19 関東・東北選抜チーム）

主 催：一般社団法人関東学生アメリカンフットボール連盟

② JAPAN U.S.DREAM BOWL 2023

国際競争力向上、および国際親善の為、国内トップレベル選手が海外のチームと対戦する国際試合が国内で行われ、その大会を後援した。

JAPAN U.S.DREAM BOWL 2023

試合日程：2023年1月22日（日）

試合会場：国立競技場

対 戦：全日本選抜チーム 対 米国 アイビーリーグ選抜チーム

主 催：一般社団法人 日本社会人アメリカンフットボール協会

8) 国際試合へのチーム派遣

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、下記の国際試合に日本代表チームを派遣した。

また、将来の国際総合競技大会へアメリカンフットボール競技が採用されるような働きかけを継続して行った。

- ① 国際総合競技大会「ザ・ワールドゲームズ2022」に日本代表チームを派遣した
大会名：ザ・ワールドゲームズ2022
主 催：国際ワールドゲームズ連盟（IWGA）
日 程：2022年7月10日～14日（遠征日程7月7日～16日）
開催地：米国アラバマ州バーミングハム
出場国：男女8ヶ国ずつ。（前年の世界選手権上位8ヶ国）

フラッグフットボールが初めて公開競技として採用され、前年の世界選手権で6位入賞の女子日本代表を派遣。12名を選出し、8ヶ国が参加する大会に挑み5位入賞という好成績を残した。男子優勝は米国、女子優勝はメキシコという結果であった。

- ② アメリカンフットボール競技の国際総合競技大会採用を目指した活動を行った

前述の通り、フラッグフットボール女子日本代表は「ザ・ワールドゲームズ2022」に出場したが、男子イタリアが米国に肉薄し準優勝、女子メキシコは王者米国を撃破し初優勝など、この種目の世界的な広がりを感じさせる結果が展開された。視察に来たIOCにも好印象を残せたのではないかと。

また、国際アメリカンフットボール連盟（IFAF）は、国際競技団体として正式な承認を受けることを目指し、オリンピック憲章に沿った国際基準を満たすよう活動を続けている。

9) 国際試合への審判員の派遣

定款第5条第1項第4号に関連する事業として2022年7月に米国アラバマ州バーミングハムで開催された「ザ・ワールドゲームズ2022」のフラッグフットボール大会に、審判員2名を派遣した。

経験豊富な2名の審判員は、2021年の世界選手権に続き、高い評価を得た。

10) 競技規則の制定・告知・頒布

定款第5条第1項第5号に関連する事業として、競技規則委員会（2022年3月26日開催、一部の競技規則委員はリモートで会議に参加）および競技規則委員会編集部会（2022年7月2日、3日）の決定に基づき、アメリカンフットボール競技の2022年度公式規則について以下の文書を発行し、加盟団体等に周知した。

- ・2022年4月1日、「2022年度・公式規則変更予定報」として変更内容の概要を告知した。
- ・2022年7月11日、「2022年度・公式規則変更内容・決定報」として2021年度公式規則からの変更内容、関係する条文の変更および追記内容を告知した。
- ・2022年8月1日、「2022-2023アメリカンフットボール公式規則・公式規則解説書」を発行した。

- ・ 予定報、決定報、公式規則・公式規則解説書はいずれも PDF を日本協会のホームページに掲載した。

1 1) 安全対策

① 安全対策全国会議

定款第5条第1項第6号に関する事業として、2023年2月18日（土）に全国の加盟団体の安全対策担当者の参加を得て、「第30回 JAJFA 安全対策全国会議」をオンライン形式で開催した。各団体のこの1年間の安全対策活動と、重大事故、試合時の外傷の報告があったが、重大事故件数はやや増加を認め、各事故についてその原因、および予防対策について詳細な検討を行った。

② 日本アメリカンフットボール医・科学研究会

定款第5条第1項第6号に関する事業として、2023年2月19日（日）に、「第25回日本アメリカンフットボール医・科学研究会」を対面+オンラインのハイブリット形式（会場：北里大学北里研究所病院内講堂）にて開催した。JAPAN U.S. DREAM BOWL における医療サポート、重大事故、新型コロナウイルス、トピックス、防具の科学、に関して討議が展開された。

③ 新型コロナウイルス感染症への対応

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、社会における感染状況の変化を鑑み、コロナ禍における各チームの活動について、JAJFA の HP に下記の内容をアップした。

- ・ 2022年7月6日：「新型コロナウイルス感染症関連規制措置の一部解除について」

1 2) ドーピング検査

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、ライスボウルにおいてドーピング検査を実施した。ドーピング検査は、専門機関である日本アンチ・ドーピング機構（JADA）が行った。検査の結果陽性例はなかった。

1 3) アンチ・ドーピング講習会

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、2022年11月14日（月）オンライン形式でアンチ・ドーピング講習会を開催した。

また、ワールドゲームズフライングフットボール代表選手・スタッフおよび、ジュニア フライングフットボール インターナショナルカップ2022派遣選手・スタッフに対してもアンチ・ドーピング講習会を実施した。

多くの指導者、選手はアンチ・ドーピングの趣旨は理解しているものの、禁止薬物に関する知識、持病等で処方を受けている薬物の事前申請（TUE）、居場所情報提出の手続きなどについて十分な知識を有しているとは言い難く、啓発活動の一環として講習会を開催した。

1 4) 受講者推薦

定款第5条第1項第6号に関する事業として、日本スポーツ協会(JSPO)が主催するスポーツドクター養成講座及びアスレティックトレーナー養成講座の受講生を推薦した。推薦にあたっては、医・科学委員会が、受講希望者の中から JSPO の受講者選考基準をもとに適格者を選考した。

1 5) アメリカンフットボールに適した競技場の設置促進

定款第5条第1項第7号に関連する事業として、各地の自治体等が球技場を設置する情報収集を心掛けている。2022年度においてはアメリカンフットボール準専用スタジアム、富士通川崎スタジアムの照明設備更新について意見交換を行い、照明設備更新工事を行った。

1 6) CFO 会議への競技規則委員派遣・参加

定款第5条第1項第5号に関連する事業として、全米大学体育協会（NCAA National Collegiate Athletic Association）の公式規則変更、公式規則適用の状況を正確にかつ迅速に把握するために、以下のとおり関係者が参加した。

- ・(米国) 大学フットボール審判協会（CFO, College Football Officiating LLC）が主催するフットボール・コーディネーター・ミーティング（2023年1月23日から25日にダラスで開催）に、競技規則委員会の副委員長および委員1名が2020年以来、3年ぶりに現地で参加した。
- ・(米国) 大学フットボール審判協会（CFO College Football Officiating LLC）が主催のナショナル・レフリー・カンファレンス（2022年5月13日～14日にダラスで3年ぶりに集会形式で開催）に、競技規則委員会の副委員長が参加した。

1 7) WEB サイトによる情報発信

定款第5条第1項第9号に関連する事業として、JAJFA 専用の WEB サイトを活用して、国内外の競技情報、JAJFA が主催する日本選手権ライスボウルの情報、試合結果、JAJFA の各委員会の活動に関する情報を発信し、JAJFA の法人としての公開情報を掲載した。

① 国際試合関連（現地レポート、試合結果等）

- ・6月 ジュニア・フラッグフットボール・インターナショナルカップ2022
- ・7月 ザ・ワールドゲームズ2022

② 国内選手権等

- ・12月 中学生選手権、高等学校選手権、大学選手権、フラッグフットボール日本選手権（小中学生）

- ・ 1月 日本選手権
 - ・ 3月 フラッグフットボール日本選手権（高校生以上）
- ③ 各委員会活動関連の広報、告知等
- ・ 高校向けクリニック、クロスオーバーアスリート測定会、公式規則変更および規則書、公認指導者講習会、新型コロナ感染症、等
- ④ JAJFA の法人情報
- ・ 定款、規程、事業報告、決算報告、役員名簿、JSC 助成金事業報告、ガバナンスコード自己評価書等

1 8) 殿堂顕彰

定款第 5 条第 1 項第 1 0 号に関連する事業として、日本アメリカンフットボールの殿堂ホームページにて紹介している第 5 回までの殿堂顕彰者の紹介内容を更新し、同時に日本のアメリカンフットボールの歴史紹介ページの 2 0 2 2 年度分の記録更新をした。

そして、故會田國男カメラマンのご遺族から日本アメリカンフットボール協会にご提供いただいた日本代表チームのボウルゲームの記念写真等を新たに殿堂に展示した。

また、昨年に引き続き殿堂顕彰者の方々と日本協会のパイプ継続のために、ライスボウルおよび国際試合のプログラムを顕彰者、ご遺族、関係者に発送をすると同時に、ライスボウルプログラムに顕彰者の皆様の紹介が載っていることも案内した。

1 9) 関係団体・機関との情報交換・連携

定款第 5 条第 1 項第 1 1 号に関連する事業として、国際アメリカンフットボール連盟 (IFAF)、公益財団法人日本スポーツ協会 (JSPO)、公益財団法人日本オリンピック委員会 (JOC)、独立行政法人日本スポーツ振興センター (JSC)、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 (JADA)、公益財団法人日本スポーツ仲裁機構 (JSAA)、一般社団法人日本トップリーグ連携機構 (JTL) 一般社団法人大学スポーツ協会 (UNIVAS)、公益財団法人日本フラッグフットボール協会 (JFFO)、NPO 法人日本ワールドゲームズ協会など関係団体・機関と密に情報交換を行い、連携して活動した。

(1) 国際アメリカンフットボール連盟 (IFAF)

2 0 2 2 年度、I F A F の総会は、ザ・ワールドゲームズが開催された 7 月米国アラバマ州バーミングハムで開催され、大陸担当理事の改選が行われた。フラッグフットボールを 2 0 2 8 ロサンゼルス五輪の追加競技とすべく、I F A F は N F L と協力し、ロサンゼルス五輪組織委員会に向けて、ほかの最終候補種目と並び、熱心に働きかけを継続した。

国際大会では、2 0 2 3 年にドイツで予定されていたアメリカンフットボールのシニア世界選手権を、ロシアのウクライナ侵攻に伴う欧州のエネルギー危機から、延期することが発表された。

(2) 公益財団法人日本スポーツ協会 (JSPO)

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格のうち、アメリカンフットボール指導員資格の認定業務を共同で実施するとともに、有資格者の義務研修を実施して資格保有者の資格更新を促した。

スポーツドクター、ならびにアスレティックトレーナーの養成講座の受講生候補者については、公募のうえ選出して推薦した。

(3) 公益財団法人日本オリンピック委員会 (JOC)

日本オリンピック委員会が主催する数多くのプロジェクトならびに会合には、業務執行理事が中心となって対応した。また、日本オリンピック委員会からのアンケート調査等に協力し回答した。また、JAF A 役員 1 名が、JOC 国際人養成アカデミーを受講し修了した。

(4) 独立行政法人日本スポーツ振興センター (JSC)

スポーツ振興センターの助成金事業に応募し、くじ助成事業として「ドーピング検査事業」、「ガバナンス強化事業」、「JAF A フットボールアカデミー事業」および「タレント発掘事業」を行った。

(5) 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 (JADA)

日本アンチ・ドーピング機構の協力を得て、日本選手権ライスボウルでのドーピング検査を、実施した。

(6) スポーツ庁

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策において、日々刻々と状況が変わる中、様々な情報提供を受け、協会活動の意思決定の情報とするとともに、傘下の団体とも情報共有を図った。

そして中央競技団体としてガバナンスコードの遵守へ向け、指導を頂いた。
また、日本選手権「ライスボウル」の後援をいただいた。

(7) 一般社団法人日本トップリーグ連携機構 (JTL)

エックス・リーグ (社会人アメリカンフットボール協会) が加盟する日本トップリーグ連携機構理事会に深堀理事が参加し、日本トップリーグ連携機構メンバーのエックス・リーグとともに NF (統括団体) の立場から日本における球技スポーツ競技の発展に係る事業に協力参加した。

(8) 一般社団法人大学スポーツ協会 (UNIVAS)

今年度は競技団体として、UNIVAS CUP への参加をし、医療従事者支援制度を活用した。協会サイトでの動画配信事業など、様々な取り組みにより競技の普及活動に協力いただいた。

また、「スポーツ外傷・障害予防研究」に係るアンケート調査などに協力をした。

(9) 公益財団法人日本フライングフットボール協会 (JFFO)

フライングフットボールの国内での普及事業を進めてきている日本フライングフットボール協会と連携し、フライングフットボールを2028ロサンゼルス五輪の追加競技とすべく、競技力向上のため協働でプロジェクトを立ち上げており、国内の競技大会を両協会での共催として開催した。

以上

Ⅱ 内部統制体制の整備についての決定および運用状況の概要

1. 現状整備されている内部統制関連規程

- 1) 社員総会運営規程
- 2) 理事会運営規程
- 3) 旅費規程
- 3) 役員等の費用弁償規程
- 4) 役員の報酬等の支給の基準
- 5) 謝金規程
- 6) 倫理懲罰規程
- 7) 内部通報規程
- 8) 殿堂顕彰規程
- 9) 寄附金等取扱規程
- 10) 会計規程
- 11) アンチ・ドーピング規程
- 12) 個人番号及び個人情報の保護に関する基本方針
- 13) 個人情報及び個人情報の保護に関する基本規程
- 14) 管理運営基金取扱規程
- 15) 日本代表チーム編成規程
- 16) 加盟団体に関する規程
- 17) 印章の管理に関する規程
- 18) 理事等の職務権限規程
- 19) 理事会提出役員選任議案作成に関する基準
- 20) 就業規則
- 21) 委員会規程
- 22) コンプライアンス委員会運営要領
- 23) アスリート&コーチ委員会運営要領
- 24) 法人カード利用規程
- 25) 助成金交付規程
- 26) 利益相反管理規程
- 27) 役員候補者選考委員会規程

2. 2022年度、内部統制関連規程の改定等

- 1) 倫理懲罰規程（改定）
2022年度第2回理事会（2022年6月12日）
- 2) 助成金交付規程（改定）
2022年度第3回理事会（2022年8月7日）
- 3) 利益相反管理規程（新規）
2022年度第3回理事会（2022年8月7日）

- 4) コンプライアンス委員会運営要領（新規）
2022年度第7回理事会（2023年3月12日）
- 5) アスリート&コーチ委員会運営要領（新規）
2022年度第7回理事会（2023年3月12日）
- 6) 役員の報酬等支給の基準（改定）
2022年度第7回理事会（2023年3月12日）
- 7) 役員候補者の選考に関する規程（新規）
2022年度第8回理事会（2023年3月23日）

3. 内部通報関連

- | | |
|----------|----------------|
| 2022年度通報 | 0件 |
| 2022年度解決 | 1件（2021年度通報案件） |

重要な事項は、すべて事業報告に記載した。

以上